

恵那市産業振興ビジョンの再構築について

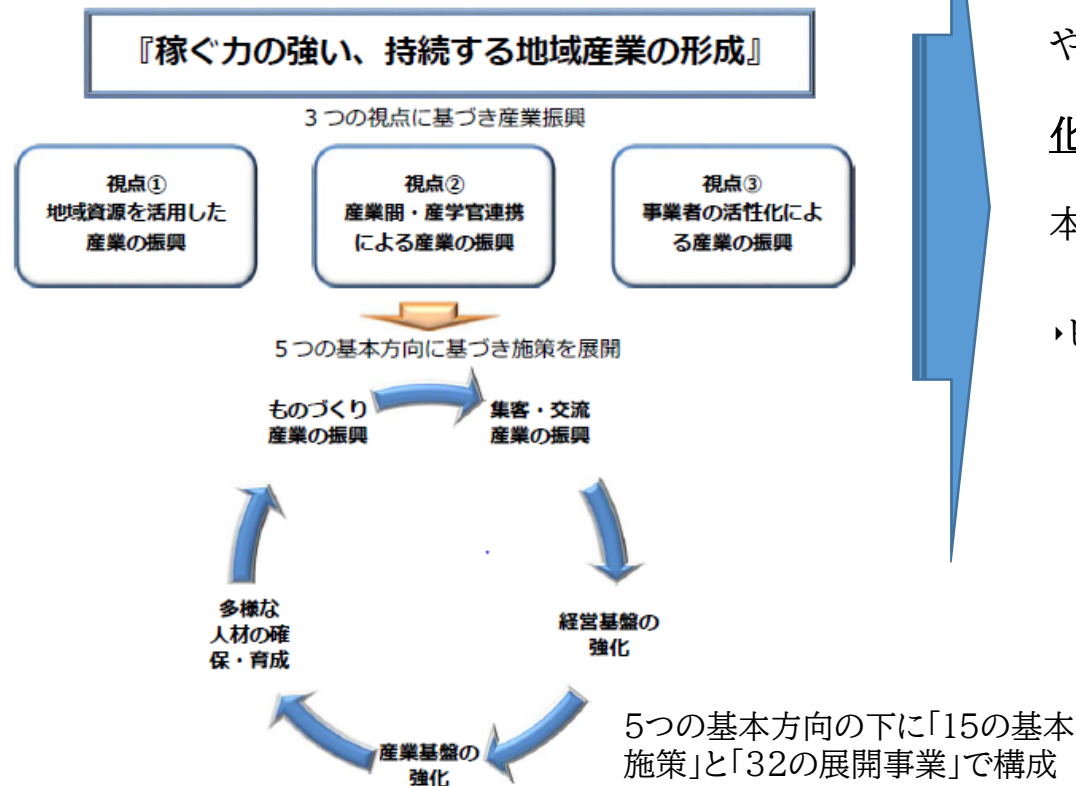
商工観光部商工課

1. 恵那市産業振興ビジョンの再構築について

(1) 現『恵那市産業振興ビジョン』について

- 平成30年3月に策定
- 分野: 商業・観光・工業・林業・農業
- 計画期間: 平成30年度から令和7年度
- 市が目指す地域産業の姿

「稼ぐ力の強い、持続する地域産業の形成」



策定から3年が経過したとともに、働き方改革の推進や新型コロナウイルスの影響、SDGsの普及、デジタル化など地域経済を取り巻く環境が大きく変化したため、本年度見直しを実施する

・ビジョンの体系の整理、目的を明確にし、より実践的な計画へ変更

2. 令和3年度恵那市産業振興ビジョン検討経過

(1) 統計から見る恵那市産業の現状と課題

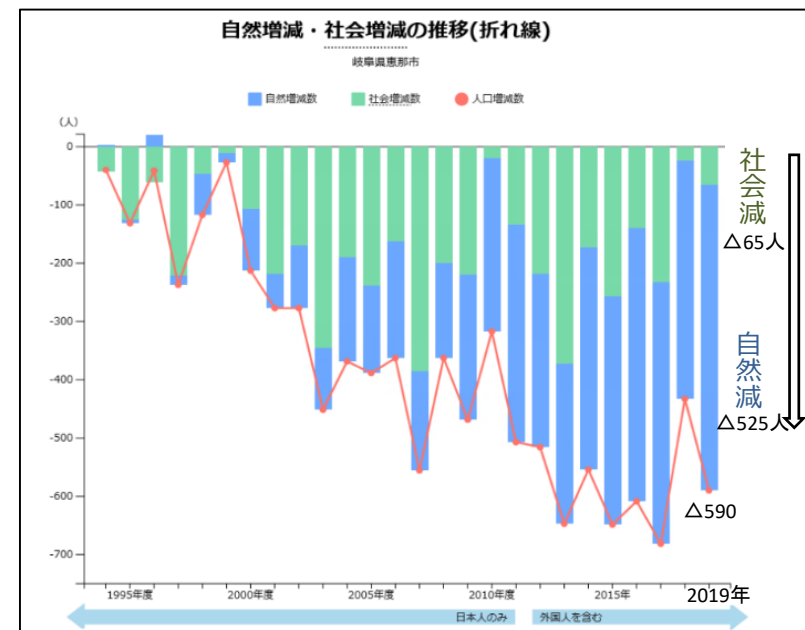
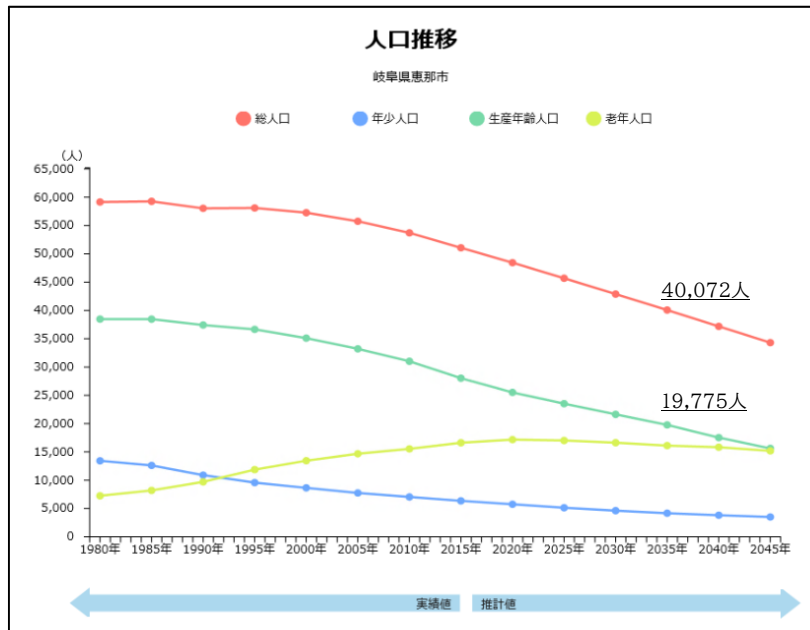
I. 地域の現状

○自然・地理的構造

- ・岐阜県南東に位置し名古屋から1時間
- ・山紫水明の豊かな自然、歴史ある観光資源が豊富

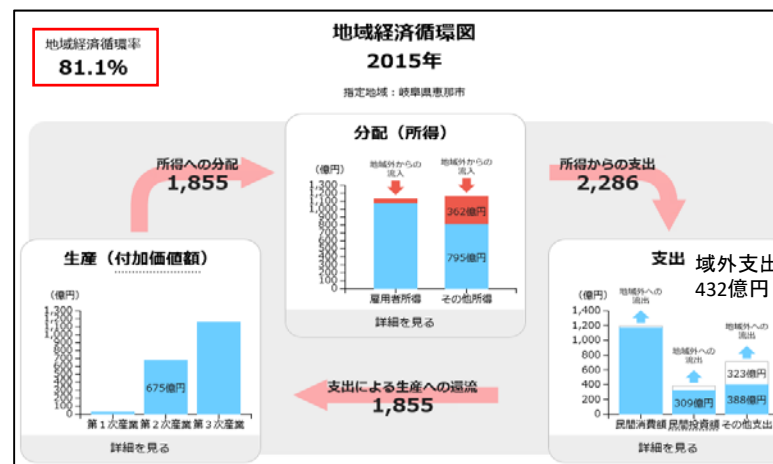
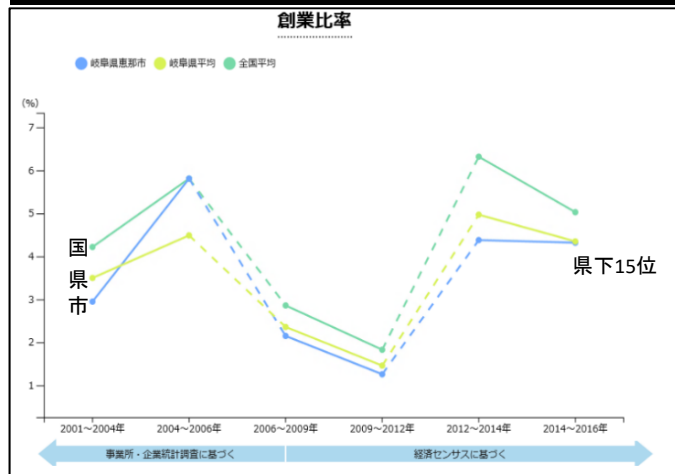
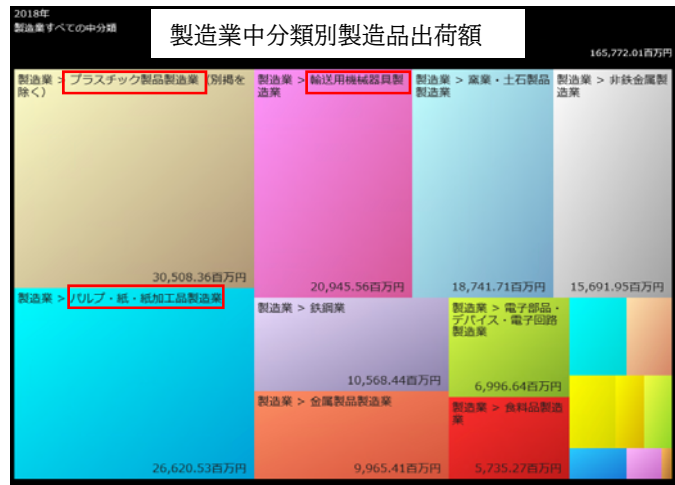
○人口の動向

- ・人口は1985年をピークに減少。令和3年3月現在(住民基本台帳)の恵那市の人口は48,992人。2035年には40,000人になると推計。
- ・年齢階級別移動数では15歳から24歳までの転出が多く、就学・就職により転出する人が多い。
- ・人口減少により地域経済の縮小が予想されることから、市外や県外、国外へと市場拡大を図ることが必要



II. 産業の現状と課題

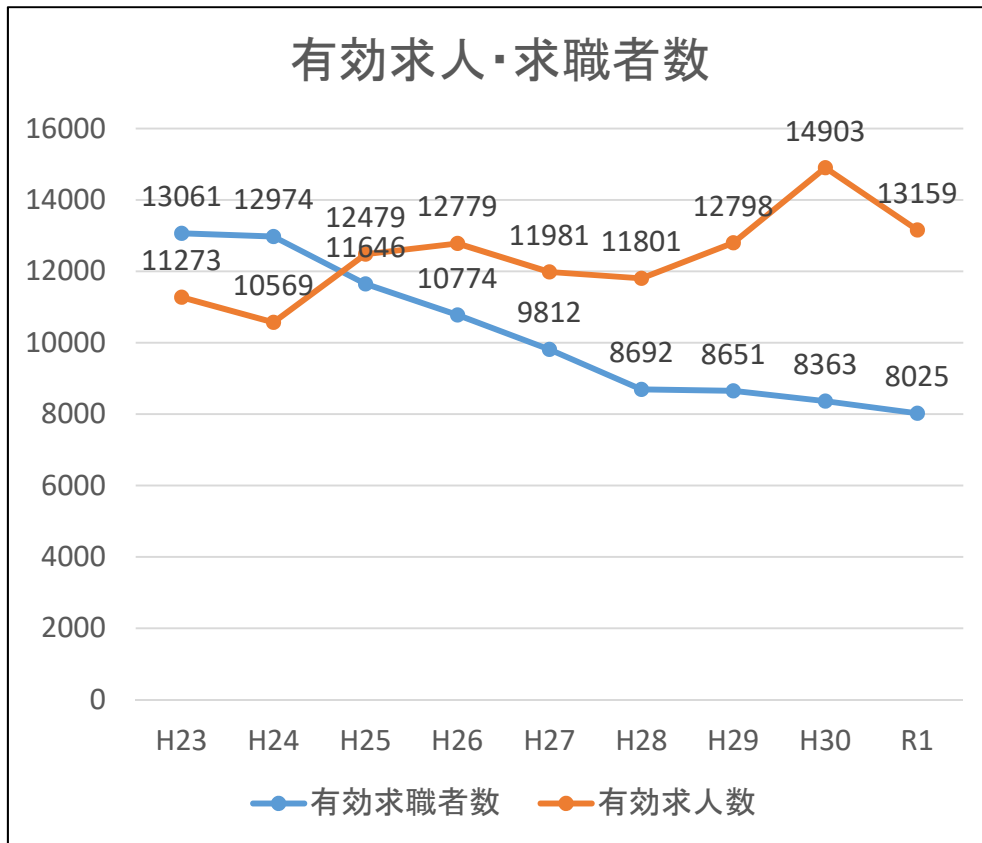
- ・恵那市の生産額は平成27年に3,831億円で、岐阜県(137,766億円)の2.7%で県内10位に位置する。
- ・生産額は第2次産業が一番多く、その割合は県及び全国平均を上回っている。中でも、プラスチック製品、紙・パルプ、輸送用機械器具製造業の出荷額が大きい。
- ・平成21年には2,982の事業所があったが、平成28年には2,620に減少。
- ・新規創業の比率は県及び全国平均を下回っており、地域産業の活性化のためには創業・起業を促進する必要がある。
- ・地域経済循環からは地域外から財やサービスを買っている。



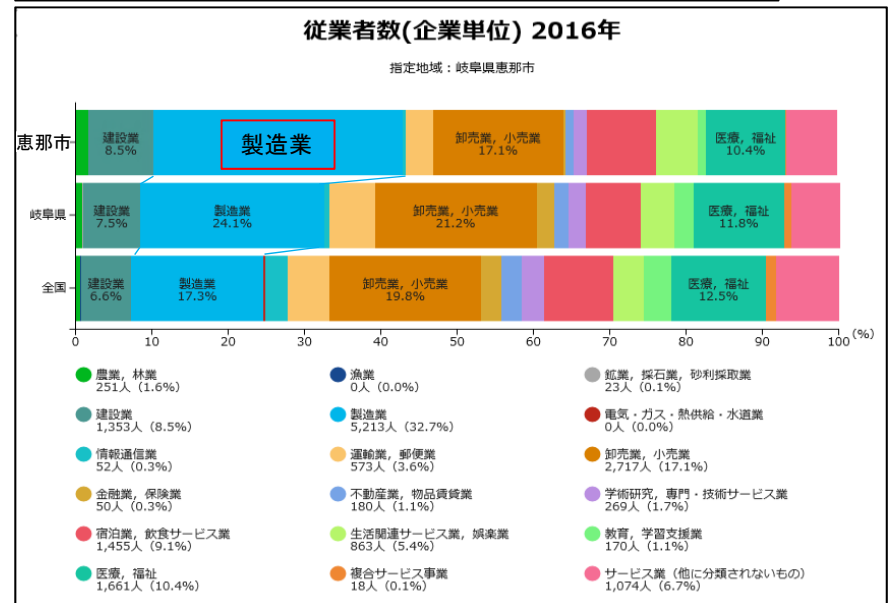
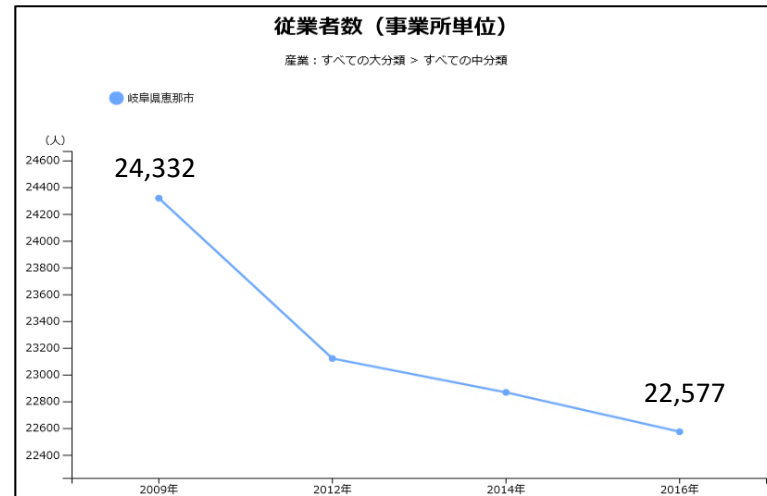
資料：RESAS地域経済分析システム

Ⅲ. 就業構造、雇用環境の現状と課題

- ・求人数は増加傾向だが、求職者は右肩下がり。
- ・従業者数は年々減少。
- ・産業分類別従業者数では製造業の割合が高く、全国及び県平均を上回る。
- ・人手不足を解消するためIT・IOTの導入が必要。
- ・従業員の高齢化が進み、優れた技術の伝承や若手を教育する人材の育成が課題。



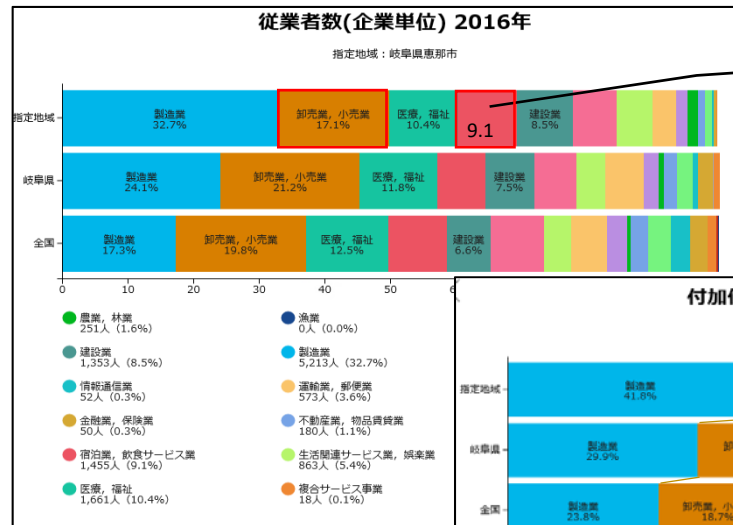
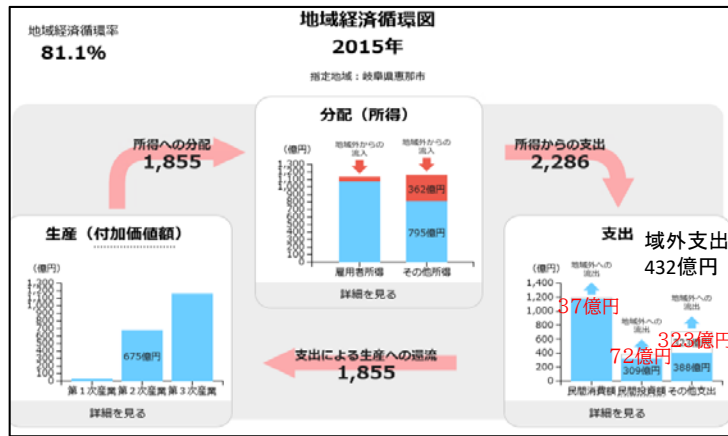
資料：ハローワーク恵那業務年報再編



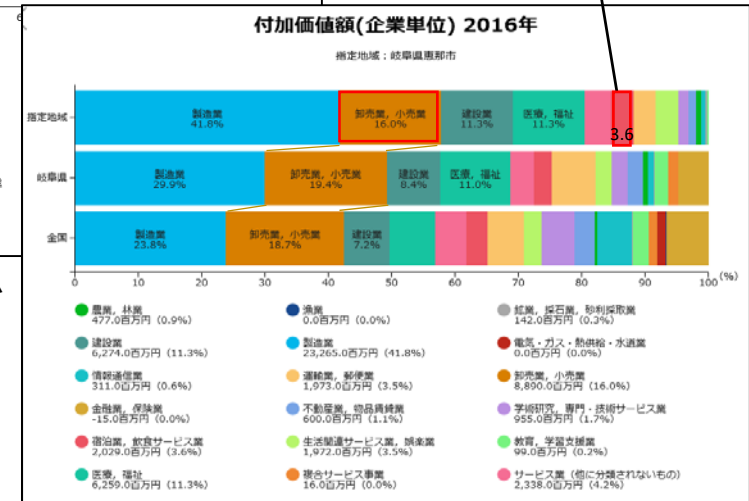
資料：RESAS地域経済分析システム

IV. 商業の現状と課題

- ・年間の商品販売額は平成19年度881億円から平成28年797億円と84億円減少。人口減少とともに、車社会の進展、大規模店舗の進出、近隣地域への商業集積等が影響か。
- ・恵那市の地域経済循環を見ると、民間消費で37億円、民間投資で72億円、その他支出で323億円が地域外に流出している。
- ・市内企業の従業者数は製造業32.7%に次、卸・小売業17.1%、宿泊業・飲食サービス業9.1%となっており、商業・サービス業の域内経済への影響度合いは非常に高いと考えられる。しかし、付加価値額で見ると割合は小さく、生産性向上や新たな付加価値創出が必要。
- ・リニア開通に伴い、今後消費流出の増大などが予測されることから、域内市場の事業活動を活発にしていけることが課題。地域の資源や魅力を活かした商業の振興と育成を目指しながら、活気のある商業地の形成及び商業全体の活性化を図る必要あり。



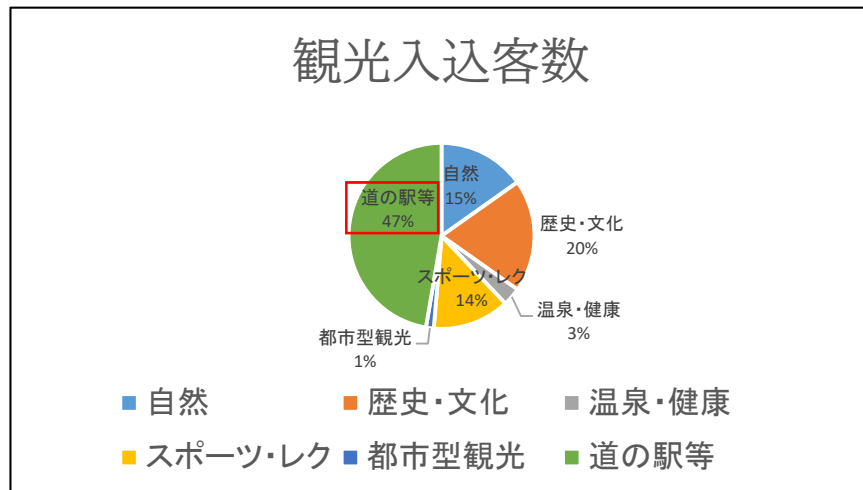
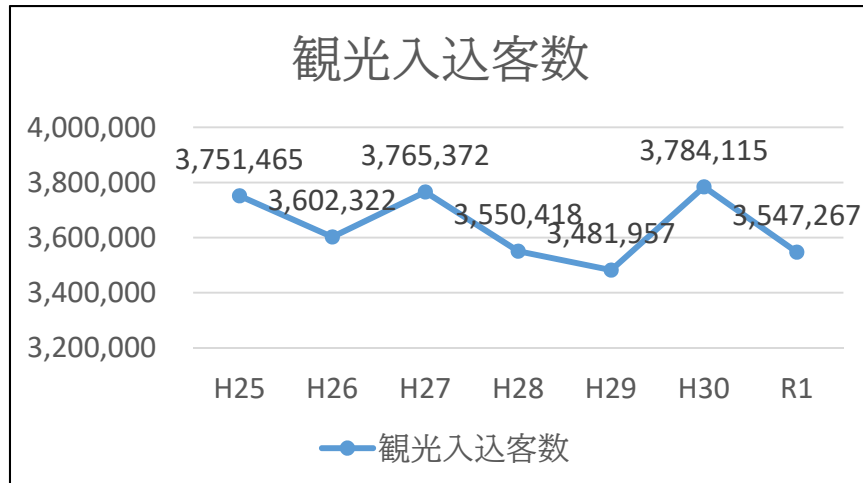
宿泊飲食サービス業



資料：RESAS地域経済分析システム

V. 観光の現状と課題

- ・恵那市の観光入込客数は、「半分青い」の効果で平成30年に年間378万人を記録した。
- ・東濃エリアへの来訪者は愛知県、長野県、三重県の順に多く、市町村別では豊田市が最も多く、春日井、瀬戸市の順に多い。また年齢は60歳以上の男女の構成比が高い。
- ・岐阜県の他のエリアと比較して日帰り旅行者の割合が高く、域内宿泊率が低い。恵那市での滞在時間を伸ばして宿泊者数を増やすことが課題となる。
- ・恵那市は、自然、歴史、温泉、グルメなど豊富な観光資源に恵まれているが、観光地分類別観光入込客数では、全体の47%を道の駅・SAが占めており、市内での周遊が進んでいない状況にある。市内での滞在時間を伸ばし、より多く消費してもらうため、観光地としてのブランド化や買いたいと思われる商品・サービス・体験プログラム開発、二次交通の充実など受入態勢の改善が必要。



岐阜県 分析結果サマリー (エリア分析：東濃エリア)

Location Trends

- 1. 来訪者特徴分析 (P42-57)**
 - ✓ 岐阜県来訪者の内、27.5%が東濃エリアを訪れている。他観光エリアと比較して、最も来訪者が多い。
 - ✓ 都市圏別みると中京大都市圏 (76.1%) からの発地者が最も多く、他観光エリアと比較すると近畿・関東大都市圏の構成比は低い。
 - ✓ 都道府県別では、愛知県発地者 (75.8%) が最も多く、長野県 (5.5%)、三重県 (3.7%) の順に発地者が多い。
 - ✓ 市区町村別では、豊田市発地者 (10.6%) が最も多く、春日井市 (7.4%)、瀬戸市 (4.0%) の順に発地者が多い。
 - ✓ 岐阜県来訪者全体と同様に50歳以上男女の構成比が高い。
 - ✓ 都市圏別では、近畿大都市圏及び関東大都市圏の男性構成比が高く、特に近畿大都市圏の男性50代以上と関東大都市圏の男性40代の構成比が高い。
- 2. 旅程分析 (P58-61、72-75)**
 - ✓ 日帰り旅行者 (73.9%) が最も多く、他観光エリアと比較しても最も多い。
 - ✓ 都市圏別では、近畿大都市圏は1泊旅行者 (39.2%)、関東大都市圏は2泊以上旅行者 (47.1%) が多い。
 - ✓ 来訪者の宿泊率は26.1%、域内泊率は42.2%と他観光エリアと比較して最も低い。都市圏別では近畿大都市圏発地者の宿泊率は最も高いが、域内泊率の向上、来訪者数の増加が課題。
- 3. 立寄り分析 (P63)**
 - ✓ 土岐市 (18.2%)、恵那市 (10.6%)、多治見市 (10.4%) の順に多い。
 - ✓ 東濃エリア以外では、飛騨エリアや県外 (愛知県・長野県) への立寄りが見られる。
 - ✓ 都市圏別では、中京大都市圏発地者は土岐市 (23.5%) の立寄りが多い一方で、他都市圏発地者は土岐市以外への立寄りが高い傾向。
- 4. 宿泊地分析 (P68)**
 - ✓ 高山市 (8.6%)、中津川市 (8.6%)、多治見市 (7.7%) の順に多い。他観光エリアと比較して宿泊地は分散する傾向。
- 5. 滞在時間分析 (P76)**
 - ✓ 平均滞在時間は3時間25分。他観光エリアと比較して、2番目に滞在時間が短い。
- 6. 交通手段分析 (P78)**
 - ✓ 東濃エリアへの来訪経路は、指定経路内では「中央自動車道 (春日井市方面から)」が最も多い。
- 7. 時間帯別流入分析 (P83)**
 - ✓ 飛騨エリアへの滞在者のピークタイムは、11時~15時。
- 8. 周遊分析 (P90-95)**
 - ✓ 1箇所からの来訪率が93.3%であり、エリア間の周遊はほぼ行われていない傾向。
 - ✓ 東濃エリアの周遊先としては中濃エリアとの周遊が最も多い。都市圏別でも同様の傾向。

資料：観光動態調査「2016年10月1日~11月30日」

資料：R1岐阜県観光入込客統計調査

Ⅶ. まとめ

人口動向

- ◆ 若者の転出
- ◆ 人口減少による地域経済縮小に対応するため域外へ市場拡大する必要がある

地域産業

- 恵那市の基幹産業は製造業
- プラスチック製品、紙・パルプ、輸送用機械器具製造業の出荷額が大きい
- 創業比率が低く、地域産業の活性化のためには創業・起業の促進が課題
- 域内で経済が十分に循環していない。域外への支出を抑制する必要がある

就業・雇用環境

- 労働力の確保が困難
- IT・IOTの導入が必要
- 従業員の高齢化に伴う技術の伝承、人材育成が課題

商業

- 人口減少や大規模店舗等の進出による年間商品販売額の減少
- 付加価値額の割合が小さいため、生産性向上や付加価値創出が必要
- リニア開通を見据えた商業全体の活性化

観光

- 恵那市の観光客数は年間360万人前後で推移
- 愛知県からの来訪者が多く、年代は60代の男女の割合が高い
- 宿泊率が低い
- 市内での滞在時間を伸ばすための仕組みの開発が必要

工業

- ✓ 製造業従事者が全国平均を大きく上回るが、事業所数は減少傾向
- ✓ 「パルプ・紙」「プラスチック製品」「窯業・土石」が恵那市の特徴のある企業
- ✓ 労働生産性の向上が課題
- ✓ 産業間、事業所間での連携を強め地域内での経済循環の促進が必要

(2)戦略策定部会委員について

NO.	氏名	所属	役職	組織	分野
1	松浦 陽平	有限会社松浦軒本店	取締役	恵南商工会	商業
2	三浦 仁憲	株式会社丸三寒天冷凍部	代表取締役	恵南商工会	商業
3	山田 一路	明陶運輸株式会社	代表取締役	恵南商工会	工業
4	大島 充記	大島電気商会	事業主	恵南商工会	工業
5	堀 好宏	金子建築工業株式会社	取締役常務	恵那商工会議所	工業
6	川上 文紀	東濃ハーネス有限会社	代表取締役	恵那商工会議所	工業
7	栗田 慎之介	株式会社ますき	代表取締役	恵那商工会議所	商業
8	大塚 晃徳	株式会社フヂシマヤ	専務	恵那商工会議所	商業
9	大富部 愛	有限会社アド・ループ	取締役常務	恵那商工会議所	広告業
10	西尾 友宏	行政書士西尾法務事務所	代表	恵那商工会議所	士業
11	秋山 浩司	東海神栄電子工業株式会社	代表取締役社長	恵那商工会議所	工業
12	柄澤 一樹	株式会社ハラカラ	共同代表	ジバスクラム恵那	観光
13	安藤 太陽	株式会社福寿の里上矢作	社長	観光協会	観光
14	加納 友美	飯地高原自然テント村	管理人	観光協会	観光
15	宮地 喜義	恵那市観光協会岩村支部	理事	観光協会	観光
16	高橋 誠	恵那商工会議所	主事	恵那商工会議所	
17	藤野 裕一	恵那市恵南商工会	経営指導員	恵南商工会	
	荒川 紳示	公認会計士、経営コンサルタント	ファシリテーター・アドバイザー		
	蟹江 信幸	岐阜県よろず支援拠点コーディネーター	ファシリテーター・アドバイザー		

(3)戦略策定部会開催経過について

1. 第1回戦略策定部会

令和3年6月11日 18:30～ 恵那文化センター 集会室
内容:ビジョン概要説明、各産業の現状と課題について議論

2. 委員個別ヒアリング

令和3年6月16日～7月2日
内容:委員の考える産業の現状と課題を個別に聞き取り

3. 第2回戦略策定部会

令和3年7月21日 18:30～ 防災センター 研修室
内容:現状と課題のまとめ、産業の強みと活用方法、弱み(足りないモノ)について議論

4. 第3回戦略策定部会

令和3年8月25日 18:30～ 防災センター 研修室
内容:ビジョン体系案についての意見の聞き取り

(4)委員が認識する産業の現状と課題

○主な意見

・産業の現状

1社依存度が高い、仕入先・同業者の廃業、大人数での飲み会の減少、女性の取用が進んでいない、中心市街地の空洞化、CSからESへの変換が出来ていない

・担い手

人材不足、若者の都会への流出、求職者に対して情報発信が出来ていない、子供の地場産業知る機会が少ない、定着率が低い、高齢化、事業承継がうまく出来ていない、地方回帰の動きあり

・製品、販路、資源

売り方が分からない、EC販売が出来ていない、地元食材を使用、他社との差別化が出来ていない、数ある観光資源が活用できていない、名産・特産品がない、ブランド化が進んでいない、付加価値が付けられていない、発信力が弱い

・町の魅力

観光客の周遊が進んでいない、ファンの獲得が必要、観光の広域連携が必要、観光資源はたくさんあるが発信が上手にできていない、ターゲットを定めた観光戦略が立てられていない、中心市街地の空洞化と魅了の低下、空き店舗の活用が出来ていない、新事業にチャレンジする際の場所がない

・新事業への展開

市内事業者の情報が少ない、複数社で仕事をシェアする仕組みを作りたい、ビジネスマッチングの場がない、BtoBからBtoCの分野に挑戦したい、新たな顧客確保のため設備投資を実施、SDGs・カーボンニュートラルの取組が課題

・創業、起業

行政のサポート環境は整っている、空き家バンクの商用利用、先輩起業家との情報交換の場がない

・アフターコロナ

マイクロツーリズムの取り組みも必要、EC販売の活用、お酒中心の商売からの転換が必要

・デジタル化

重要と考えるが進んでいない、技術の伝承のためにも必要、成功事例が必要、相談窓口が岐阜方面しかなく不便

・土地、環境、その他

産業(住宅)用地の不足、物流上の交通利便性は高い、郷土愛を育む教育が必要、選択と集中が重要

・新型コロナの影響

大型車関連部品の生産減、ステイホームで住宅の改装などの需要が増加、和菓子の売上の落ち込み、衣料小売業は外出制限のため需要がなく売れない、飲食店の売上減少、キャンプ場は売上増加、観光客及び土産物の売上減少

(5) 委員が認識する市産業の強みのキーワード

○豊富な観光資源、地理的条件、技術力、物流上の利便性、豊かな自然、歴史、リニア岐阜県駅の建設、前向きな経営者が多い、特産品が豊富



目指すべき将来像 「稼ぐ力の強い、持続する地域産業の形成」
を達成するためにどうあれば良いか

○良いモノがあっても市場に受け入れられなければ稼げない。マーケットから発想する視点による情報発信や新商品の開発、デジタル技術の活用やビジネスマッチングの場が必要

(6) 恵那市固有の特徴・強みの整理～恵那市らしさのある戦略の策定～

I. 東濃他市と比較した恵那市の特徴・強み

観光

豊富な観光資源、明知鉄道、
自動車関連イベント

工業

発電用ダム、風力発電、水素
ステーション

恵那市

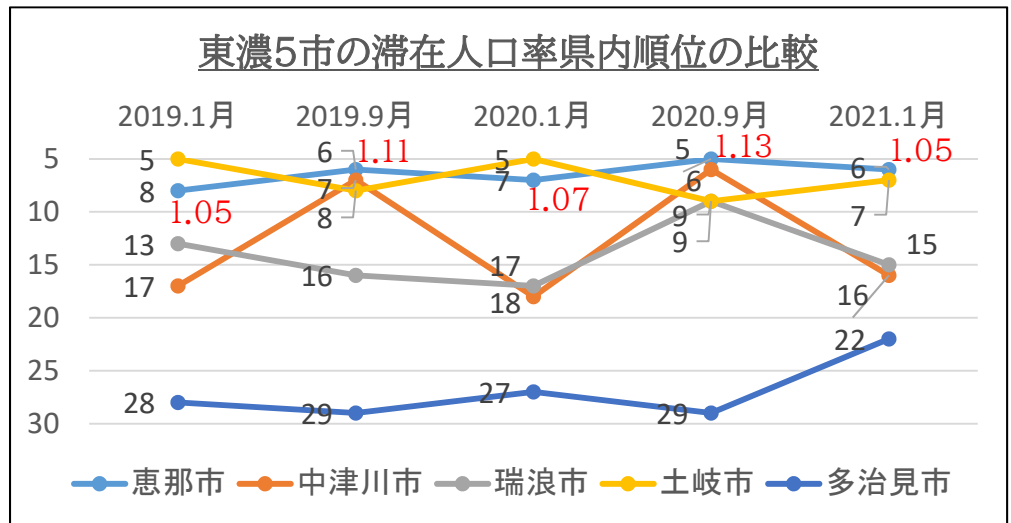
商業

商業施設の集積、恵那峡SA

その他

ビジネス支援機関、地域商社、
農業専門学校、県内有数の
進学校、豊かな自然

○水力発電施設：恵那市 17箇所



※休日14時時点の滞在人口率

資料：RESAS地域経済分析システム再編

※滞在人口率は、滞在人口÷国勢調査人口

- ◆ 恵那市の滞在人口率は東濃及び岐阜県でも上位に位置する。
- ◆ 恵那市は外出を控える冬季でも下がり幅が少なく1年を通じて高い滞在人口率となっている。

II. 東濃他市と比較した恵那市の特徴・強みの分析

Strength (強み)

観光

豊富な観光資源、明知鉄道、
自動車関連イベント

工業

発電用ダム、風力発電、水素
ステーション

恵那市

商業

商業施設の集積、恵那峡SA

その他

ビジネス支援機関、地域商社、
農業専門学校、県内有数の
進学校、豊かな自然

Opportunity (機会)

2027年のリニア中央新幹線の
開業

世界的なSDGsの潮流

行政によるDX推進に関する積
極的支援

カーボンニュートラルの取り組み
の加速

IoT導入の機運の高まり(産業の
DX化)

EC取引の増

コロナウィルス感染症拡大に伴
う地方回帰の動き

アウトドアブーム

大企業の都心オフィス縮小化・
地方移転の傾向

働き方の多様化

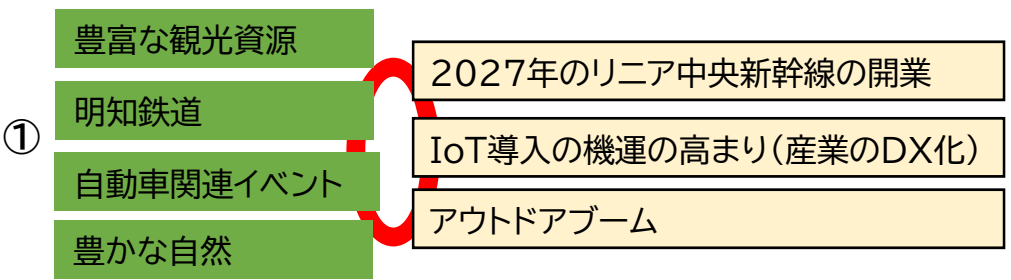
クロス分析

Strength
(強み)

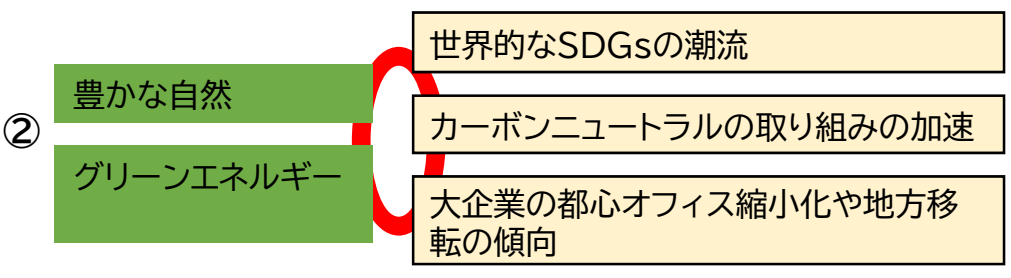
Opportunity
(機会)

積極戦略

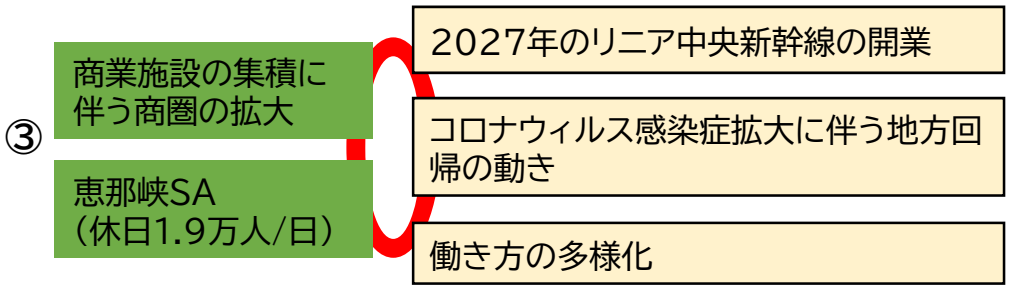
強みを使って、機会を最大限活用する戦略



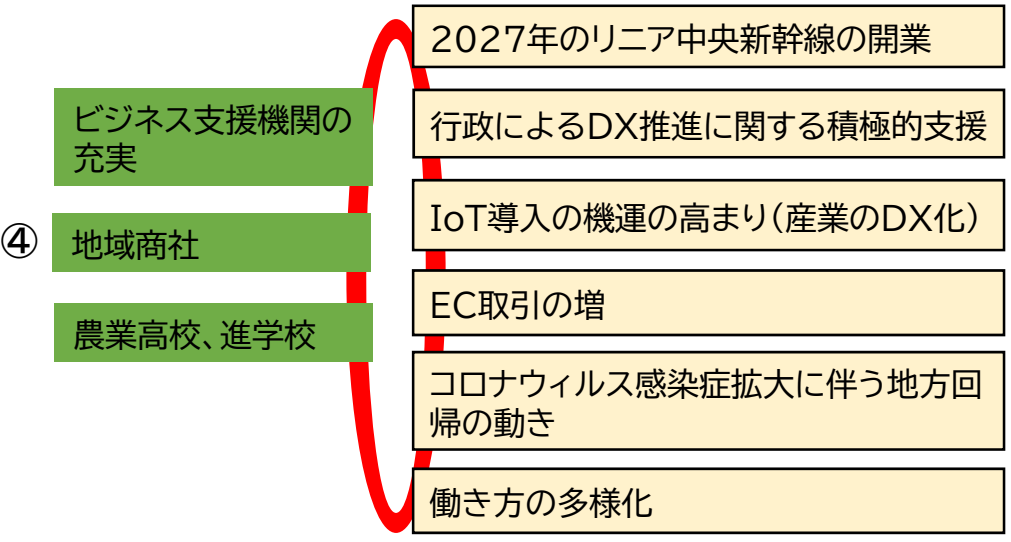
1. 豊かな自然などの地域資源を活用したエコツーリズムの推進
2. デジタル技術を活用した観光戦略と効果的な情報発信
3. 宿泊・体験・食を組み合わせた新たなコンテンツの開発やアウトドア施設の整備や宿泊の多様化への対応



1. 恵那市産の水力、風力、太陽光等の再生可能エネルギーの地産地消を促進することにより、市内事業所のカーボンニュートラルの実現を目指すと共に、省エネ設備の導入を促進し産業優位性の構築(産業競争力を強化し、売上・受注を拡大)を目指す。
2. 進出企業に対しカーボンニュートラルの取り組みでインセンティブを与えることで企業誘致の優位性を確保



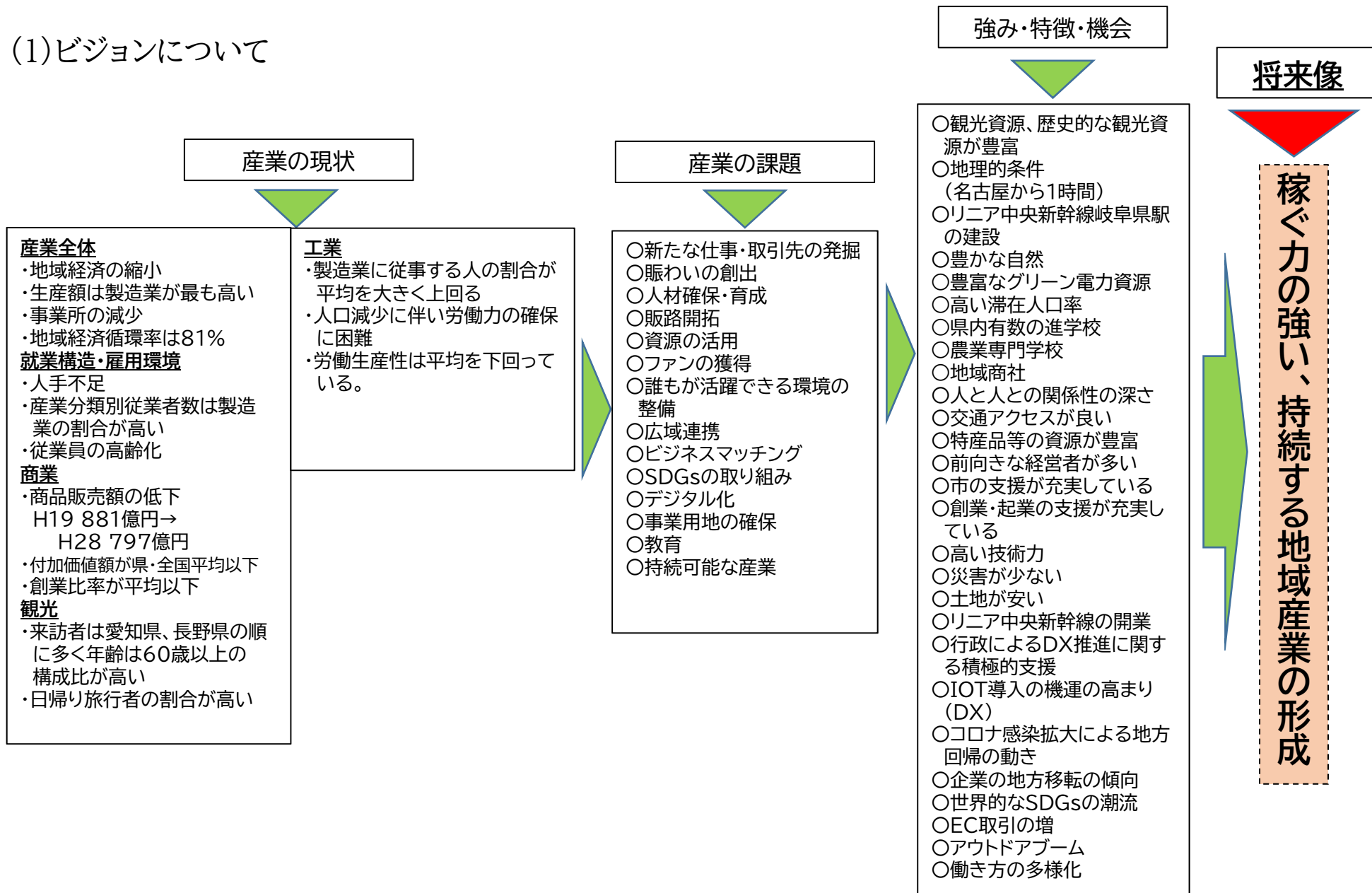
1. 県内上位に位置する滞在人口率を活かし、まちなかや点在する観光拠点間の周遊性を高め、滞在時間の増加につなげるため、差別化支援や、賑わいの創出のための拠点の整備などのハード整備を実施。
2. 移住定住の促進



1. 10年先の恵那の未来を創る人材(若者)の育成
2. 恵那ビジネスサポートセンターによる域内事業所のデジタル化支援の充実
3. 地域商社によるEC販売等の販路拡大支援
4. 人材誘致の取り組み推進
5. 産学官の連携促進
6. コミュニティビジネスを検討する若者に対する創業支援

3. 恵那市産業振興ビジョン体系案について

(1) ビジョンについて



課題を克服し強みを生かし、将来像を達成するための方針、手

法として**戦略**を設定する

(2)ビジョン体系案について

I. 将来像へのアプローチの方法

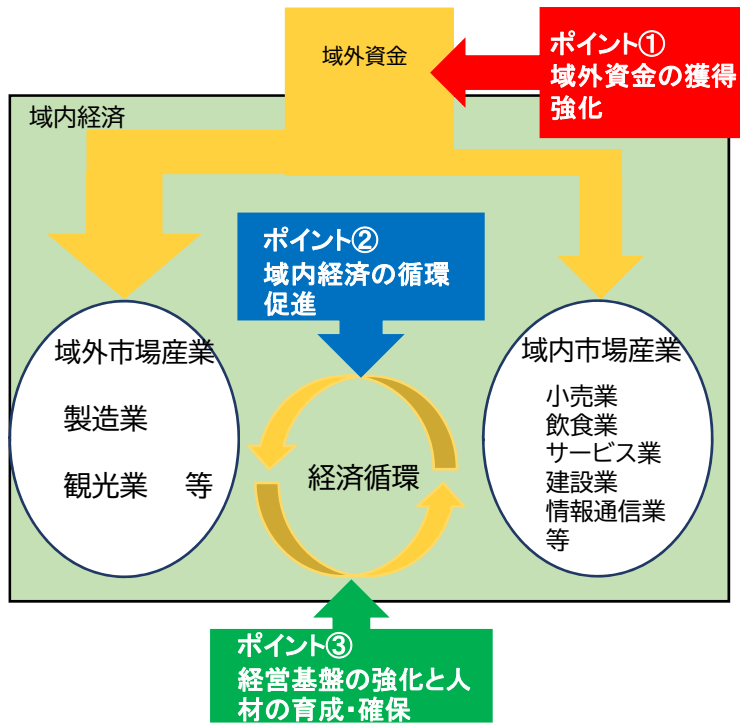
マーケットに支持される『売り』をつくることで
稼ぐ力を高め域内経済を拡大する

『One's Specialty』
をつくる、磨く

➡

『Ena's Specialty』
の確立

II. 戦略展開の考え方



域内経済の構図において、3つのポイントを設定し6つの戦略を展開

III. ビジョン体系案

○目指すべき将来像

稼ぐ力の強い、持続する地域産業の形成

○恵那市の特徴を生かした重視する視点

I
カーボンニュートラル
の実現

II
周遊性の向上

III
産業人材の育成

- I. 恵那市産のグリーン電力を活用したカーボンニュートラルの推進
- II. 県内上位に位置する滞在人口率を活かした周遊性の向上
- III. 新たな時代を担うすべての産業の基盤となる多様な人材の育成、確保。

○戦略

ポイント①

戦略1
○電力の地産地消の推進とデジタル技術を活用した産業革新による稼ぐ力の増強

戦略2
○来訪者の周遊性の向上や宿泊の促進と広域連携の促進による交流人口の拡大による稼ぐ力の増強

戦略3
○地域経済の発展を支える企業集積の推進による稼ぐ力の増強

ポイント②

戦略4
○新たな活力を生む創業支援と異業種交流、産産連携の促進による稼ぐ力の増強

戦略5
○事業承継の促進と地域に根ざす地場産業の経営基盤の確立による稼ぐ力の増強

ポイント③

戦略6
○次世代を担う産業人材の育成・確保と労働環境の改善による稼ぐ力の増強

4.ビジョン戦略に基づく施策案について

【目指すべき将来像】

稼ぐ力の強い、持続する地域産業の形成

戦略1

○電力の地産地消の推進とデジタル技術を活用した産業革新による稼ぐ力の増強

施策案

- ◆ 1-1 カーボンニュートラルの実現に向けた電力の地産地消の推進と投資促進
- ◆ 1-2 IOTの活用やデジタル化(DX)の推進による生産性の向上
- ◆ 1-3 付加価値の高い新商品、新サービスの開発や成長産業への参入促進

戦略2

○来訪者の周遊性の向上や宿泊の促進と広域連携の促進による交流人口の拡大と稼ぐ力の増強

- ◆ 2-1 来訪者の市内周遊と宿泊を促進させるため施設・店舗の魅力向上や販わい創出の拠点の整備
- ◆ 2-2 リニア中央新幹線開業を活かした広域観光連携の促進による来訪者の拡大とインバウンド観光の推進
- ◆ 2-3 恵那固有の自然や歴史を活かしたアウトドアレジャーと歴史観光の推進

戦略3

○地域経済の発展を支える企業集積の推進による稼ぐ力の増強

- ◆ 3-1 事業拡大を進める域内事業所の支援と雇用拡大の推進
- ◆ 3-2 多様な人材の活躍につながる企業誘致の推進
- ◆ 3-3 新たな事業用地の確保と既存施設の活用促進

戦略4

○新たな活力を生む創業支援と異業種交流、産産連携の促進による稼ぐ力の増強

- ◆ 4-1 起業・創業環境の整備推進による新事業の創出
- ◆ 4-2 業種、分野を超えた域内事業者の連携、共創の推進

戦略5

○事業承継の促進と地域に根ざす地場産業の経営基盤の確立による稼ぐ力の増強

- ◆ 5-1 域内事業所の経営全般の相談機能の充実と事業承継の促進
- ◆ 5-2 EC取引等を活用した販路開拓の推進
- ◆ 5-3 消費者ニーズや新たな生活様式に対応した魅力的な店舗・サービス作りの推進

戦略6

○次世代を担う産業人材の育成・確保と労働環境の改善による稼ぐ力の増強

- ◆ 6-1 児童・生徒に対するキャリア教育の推進と域内事業所の魅力の積極的な発信
- ◆ 6-2 IT・クリエイティブ人材の育成・確保
- ◆ 6-3 能力や経験を活かした働き続けられる労働環境づくり
- ◆ 6-4 人材誘致の視点に立った取り組みの推進